児童会・生徒会によるいじめ問題に係る取組事例集

秋田県教育庁義務教育課

平成２４年１０月

目　　次

【小学校】

☆児童会によるいじめ未然防止のための取組事例

・鹿角市立花輪北小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

・湯沢市立秋ノ宮小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

・羽後町立羽後明成小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

☆児童会によるいじめ根絶のための取組事例

・男鹿市立船川第一小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

・五城目町立五城目小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

【中学校】

☆生徒会によるいじめ未然防止のための取組事例

・北秋田市立鷹巣中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

・三種町立琴丘中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

・由利本荘市立矢島中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

・横手市立十文字中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

☆生徒会によるいじめ根絶のための取組事例

・秋田市立豊岩中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

・男鹿市立潟西中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

・大仙市立大曲中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２

・湯沢市立湯沢北中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

【小学校】

学　校　名	鹿角市立花輪北小学校	児童生徒数	１５１人	学級数	８

１　活動名　あいさつファインウィーク　～いじめのない明るく温かい人間関係づくり～

２　活動の趣旨
・児童自らが全学級によるあいさつ運動を推進し、明るくいじめのない学校生活を送ろうとする気持ちを互いに高め合う。
・明るいあいさつを広げるために、学級でどのような取組をしたらよいか話し合い、互いの実践力を向上させる。

【～１年あいさつ運動の様子～】
うちわに「おはようございます」「こんにちは」と書いて元気にあいさつ。
あいさつを返してくれたら、うちわであおいであげよう。

３　活動の概要
（活動の時期）
・　６月１４日～　６月２０日
・　９月１２日～　９月２１日
・１２月１１日～１２月１８日
・　２月１２日～　２月１９日

（参加児童）
・全学級児童
＊学級に期日を割り当てて実施する。

（活動の内容）
・取組は、学級の創意工夫を生かして行う。
実施時間帯は、朝・大休憩・昼休みとする。

〇児童会で、あいさつファインウィークの横断幕とバッジを準備し、各学級に配付する。
〇事前に児童会運営委員が、児童集会や昼の放送などで宣伝活動を行い、「あいさつファインウィーク」に向けて全校の意欲を高めるようにする。
〇「あいさつファインウィーク」の期間中は、あいさつ運動を日替わりで学級に割り当てて行う。
〇具体的なあいさつの声かけ方法は、各学級で話し合い決定する。朝や大休憩などに、児童玄関や中央廊下に立ち、あいさつを呼びかける。

（例）６年生　「あいさつタッチ」～
・あいさつを交わした人とタッチをしよう。
・何人の人とタッチができるかな。

５年生　「あいさつレンジャー」～
・北小あいさつ合い言葉「あかるく」「いつでも」「さきに」「つづけて」をアピールしよう。
・合い言葉を書いたはちまきをしめて、元気にあいさつ運動をしよう。

４　これまでの成果と考えられること
・学校全体に明るいあいさつを響かせるにはどうしたらよいか学級で話し合い、明るい気持ちで学校生活を送ることの意義や、あいさつをされた方の気持ちを、各学級で考えるきっかけとなった。
・各学級に実施期日を割り当てることにより、自分たちでつくり上げるあいさつ運動であるという意識が高まり、あいさつファインウイーク期間中は、より積極的なあいさつが交わされた。
・明るいあいさつをしてくれた人に、同じくらい明るいあいさつを返そうとはりきる姿が見られた。
・あいさつを交わすだけにとどまらず、タッチをしたりうちわで扇いだりする「関わり合う」活動を取り入れることで温かい人間関係が生まれ、いじめの未然防止につながっている。

５　今後の課題
・学期に１回～２回は実施しているので、マンネリにならないように今後も工夫を取り入れて実施していきたい。
・校内のあいさつは活性化されてきている。これを地域に戻ってからのあいさつに広げていけるようにしていきたい。道徳や学活の時間に、自分のあいさつについて見つめ直す時間を設け、なお一層意欲的に取り組んでいけるようにしたい。

学　校　名	湯沢市立秋ノ宮小学校	児童生徒数	６２人	学級数	５

１　活動名　「あいさつ運動」に取り組もう！　～一人が変われば、みんなが変わる～

２　活動の趣旨

・児童自らが挨拶の意義を考え、運営委員会（児童会）が主体となり、「あいさつ運動」を推進することにより、学年を超えた児童相互の健全なコミュニケーションを図り、いじめ等の予防となるようにする。

・挨拶に係る「言葉遣い」に関して、みんなで考えることを児童会で呼びかけ、いじめ等の未然防止に努める。

３　活動の概要

新学期を迎え学校全体が明るく活気を帯びてきているところで、１年間全校児童が楽しく元気に学校生活を送ることができるように、運営委員会では「あいさつ運動」を行うこととした。

(1)　「あいさつ運動」の取組

・１学期と３学期は、毎月第１週を「あいさつ運動強調週間」、２学期は、毎月第１週を「言葉遣い強調週間」とし、児童会を中心に行う。

(2)　「あいさつポスター」の作成

・高学年を中心に「あいさつポスター」を作成し、校内各所に掲示し、意識付けを図る。

(3)　「あいさつカード」の活用

・１日のうち「３０人以上に挨拶できたら◎」、「２０人以上だったら○」、「２０人未満だったら△」とするカードを作成する。

・給食の時間に「あいさつカード」について説明した後、児童全員にカードを配る。

・他の学年の児童にも挨拶するように呼びかけ、積極的に異学年との交流を図る。

【朝の会の前に２人１組になり各教室を挨拶して回る運営委員】

(4)　「ことばカード」の活用

・児童会の提案により「うれしい気持ちになる言葉」「いやな気持ちになる言葉」について、各学級で話合いをもつ。

・話合いで、「うれしい気持ちになる言葉」として、「ありがとう、いっしょに～しよう、ドンマイ、だいじょうぶ、ごめんね」などが挙がるようにする。また、「いやな気持ちになる言葉」として見た目をばかにするような言葉などが挙げられることを期待した。無視、呼びすて、ひそひそ話、指さしなども相手を不快にする行為として挙げられる。

・各学級の話合いを基に、運営委員が「ことばカード」を作成する。

・カードについて運営委員が説明した後、全学級でカードを活用し、その取組状況を全校に知らせ、相手を思いやる優しい言葉を使おうとする意欲の向上を図る。

４　これまでの成果と考えられること

(1)　教室へ出向いての運営委員の挨拶は、各学級で温かく迎えられた。徐々に「おはようございます」だけでなく「今日も一日がんばりましょう」など、自分たちで考えた言葉でコミュニケーションを図ることができるようになり、意欲的に取り組むことができた。また、「あいさつカード」による「あいさつ運動」では、低学年が高学年のいる２階に行って、積極的に挨拶をする姿が見られ、全校を巻き込んだ運動にすることができた。異学年交流が一層進み、高学年が低学年の面倒をみることが今まで以上に増えた。

(2)　「言葉遣い」に関しても児童会で取り組むことにより、学級内ばかりでなく、全校が一丸となってお互いを尊重する気持ちをもつことができるようになり、学校生活への意欲をさらに向上させることができた。７月に実施した児童アンケートで、９８％の児童が「学校は楽しい」と答えている。

５　今後の課題

(1)　「あいさつ運動」の成果を児童自身が検証し、問題点を話し合い、継続して明るい挨拶ができるように支援していく。

(2)　来客や地域の人たちに対してもしっかりとした挨拶ができるようにしていく。また、家庭にも協力してもらい、明るい挨拶を基盤とした健全な人間関係を構築していくようにする。

(3)　言葉遣いに関しては、道徳の時間や学級指導との関連を図り、さらに効果的に推進できるようにしていく。

学　校　名	羽後町立羽後明成小学校	児童生徒数	１１３人	学級数	６

１　活動名　全校で交流を深め合うことでコミュニケーション能力を育む活動

２　活動の趣旨

縦割りグループ活動を児童会の活動の中心にすえ、全学年を対象に交流を深め合い、自分とは異なる立場の仲間へのコミュニケーションを積極的に促すことで、相手の立場に立った行動をとろうとする態度を育む。

３　活動の概要

①　全校集会における児童会運営委員会からの呼びかけ活動（随時・参加：全校児童）

※　写真は、１０月１日（月）の例。

全校集会を主催する運営委員会が、「友達をさそい合ってなかよく遊ぼう」「友達をきずつけるような言葉を使わないようにしよう」と、全校に呼びかけた。

②　縦割りグループによる清掃活動（毎日・参加：全校児童）

本校では、毎日の昼清掃を縦割りグループで行っている。全校を１８のグループに分け、上級生は下級生の面倒をみて、下級生は上級生の指示に従って無言清掃に取り組んでいる。

③　縦割りグループによる運動会（４月・参加：全校児童）

例年、本校の運動会は縦割りグループの対抗戦を中心に位置付け開催されている。その中で、色別リレーや応援合戦などは、６年生がリーダーシップを発揮して全学年が練習に取り組んでいる。

④　縦割りグループによる農園活動（１１月・参加：全校児童）

本校は学校農園を有し、③のグループにより毎年農作物を植えたり世話をしたりしている。

秋にはトマト・カボチャ・マメなどを収穫し、地域の人にも参加を呼びかけ収穫感謝祭を行っている。

①

②

③

④

４　これまでの成果と考えられること

上記のように積極的に異学年交流を行うことで、日常的に自分とは異なる立場になって考えたり、行動したりする経験を子どもたちは積んできている。このような取組を数年来継続しているために、学校行事等でスムーズに活動を行うことができている。

縦割り活動を積極的に取り入れることは、コミュニケーション能力を高めていると言える。

５　今後の課題

小規模校とはいえど、全員が常に仲良くできているわけではない。小さな人間関係のトラブルは時折見られる。本活動を通してのコミュニケーション能力の醸成はもとより、道徳や教科の学習を通じて、今後も継続的に、児童の内面に、自分とは異なる相手の立場や言動を尊重する気持ちを育てていく必要がある。

学　校　名	男鹿市立船川第一小学校	児童生徒数	１８２人	学級数	６

１　活動名　スマイル運動

２　活動の趣旨

学校生活を明るく楽しいものにするために、全校一致した目標をもつことで、自律の精神と思いやりの心を養う。

３　活動の概要

（１）活動の時期

後学期開始の１週間（１０月９日～１２日）

（２）参加児童

全校児童を対象にして一斉に取り組む。

（３）活動の内容

①１０月５日(金)前学期終業式後、児童会運営委員会から活動の趣旨や内容について全校へ呼びかける。(右・写真)

【運営委員会による呼びかけ】

②校内に目標を掲示し、「スマイル運動」を意識して学校生活を送れるようにする。放送を活用して運営委員会が全校に呼びかける。

③スマイルカード（右表）を全員に配付する。各自が一日の過ごし方を帰りの会で振り返り、自己評価をする。また、評価結果を基に、各学級でも重点的に取り組む項目について話し合う。

《スマイルカード》　＜10月9日～12日＞ 運営委員会

がんばること	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)
みんなと仲良くできましたか？				
人のいやがることや仲間外れをしませんでしたか？				
明るく，さわやかなあいさつをしましたか？				
ろう下では，静かに右側を歩きましたか？				
友達や先生の顔を見て聞くことができましたか？				
＜ふりかえり＞				

◎・・・よくできた　○・・・だいたいできた　△・・・あしたがんばろう

【スマイルカード】

④活動終了後、運営委員会が各学級のスマイルカードの結果をまとめ、放送や掲示により紹介するとともに、今後の学校生活への意欲を喚起する。

４　これまでの成果と考えられること

・運営委員会で、最近の気になる話題として、全国的に問題となっている「いじめ」が挙げられ、「明るく楽しい学校」にするための計画を話し合った。
・子どもたちが、スマイルカードの項目を意識して生活するようになった。
・運営委員会が、スマイルカードの結果を基に、よかった点や課題となった点を話し合い分析した。児童会だよりにまとめて紹介するとともに、項目を再検討し１１月の活動に生かすことになった。
・「スマイル運動～第２弾～」として、各委員会ごとに「明るく楽しい学校に」するための取組を話し合って実践することになり、活動に広がりが出てきた。

５　今後の課題

・この取組を契機に児童会の自治活動を一層促進したい。

学　校　名	五城目町立五城目小学校	児童生徒数	３１７人	学級数	１５

１　活動名　いじめゼロ宣言　あいさつ運動といじめ防止児童集会

２　活動の趣旨

・あいさつを奨励することで友だちの輪を広げ、いじめをなくすようにする。
・いじめ防止児童集会を開催することで、全校の子どもたちの「いじめをなくそう」という意欲を高める。

３　活動の概要

・１１月～１２月に開催予定。
・１週間程度、リーダー委員会の子どもたちが中心になって全校縦割り班で日替わりであいさつ運動を行う。朝全校を回り、全校の子どもたちに元気よくあいさつをする。あいさつをすることで友だちの輪を広げ、いじめ防止につなげる。また、リーダー委員がいじめ防止のポスターを作り全校に掲示する。ポスターには「こういうこともいじめになるんだ」という内容と、いじめられている人の気持ちを表現するようにし、全校の子どもたちにいじめ防止をうったえる。
・リーダー委員が中心になって、「いじめ防止全校朝会」を企画、運営する。
内容 ①いじめに関する先生のお話
②いじめの寸劇
③場面ごとにどうすればよかったか、いじめはどうしていけないのかを話し合う。
④集会のふりかえり

４　期待される活動の成果

・あいさつが活発になる。友だちの輪が広がる。
・いやがらせやいじめが減る。
・いじめをやめよう、いじめを許さないという意欲が高まる。

５　今後の課題

・いじめをゼロにするために、あいさつ運動を通したいじめ防止に根気強く継続して取り組んでいかなければいけないと考える。

参考事例 青梅市立第二小学校「二小だより」平成２３年度第５号
佐渡市立行谷小学校ホームページ平成２４年６月２９日付

【中学校】

学　校　名	北秋田市立鷹巣中学校	児童生徒数	３４９人	学級数	１３

１　活動名　学級実態調査書の活用

２　活動の趣旨

学級実態調査は、生徒会執行部からの提案で、本校が５年前から始めているものである。学級の実態を把握し、各学級の意見を学校全体で吸い上げ、諸問題を全体で討議して解決していきたいという趣旨から始められた。学級の様子を振り返り、拡大中央委員会で報告する。拡大中央委員会では、各学級に関すること、学校全体に関する諸問題について話合いが行われ、ここで解決に向けた取組について提案される。生徒会としての取組を学級で実践していくことで、生徒相互のよりよい人間関係を築いていくことをねらいとしている。

３　活動の概要

（１）学級委員長、副委員長が毎月の終わりに調査用紙に必要事項を記入する。

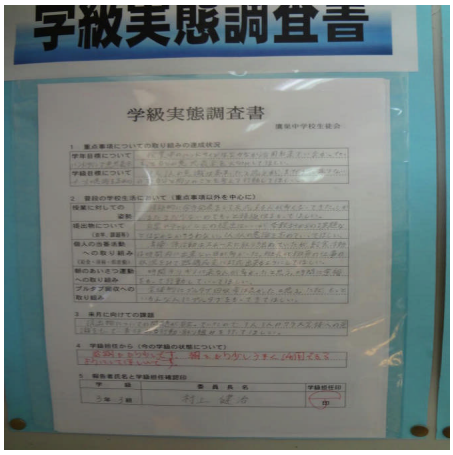
（２）その月の学級の様子を項目ごとに振り返る。

①　重点事項についての取組の達成状況
- 学年目標について
- 学級目標について

②　普段の学校生活における学級の状況
- 授業に対しての姿勢
- 提出物について
- 当番活動への取組
- あいさつ運動への取組
- プルタブ回収への取組

③　来月に向けての課題

④　学級担任から



【教室の掲示から】

（３）学級担任のチェックをもらい、拡大中央委員会へもって行く。

（４）学級の諸問題や学校全体の問題を拡大中央委員会で検討する。

（５）拡大中央委員会への参加は、生徒会執行部・学級委員長・副委員長の計３１名である。

（６）教師は、生徒の抱える諸問題や生活のリズムなどを把握する。

４　これまでの成果と考えられること

- 学級実態調査書を活用してきたことで、各学級の委員長・副委員長が、積極的に学級の問題を解決しようと意欲的になり、生徒会との結び付きが強くなってきた。自分たちで解決できることや、学級で取り上げなければいけないことなどに早めに対処できるようになり、生徒間の自浄能力が高まった。
- 学級実態調査書をもとに、委員長・副委員長を中心とした生徒間の話合いや、学年・全校の問題を取り上げる拡大中央委員会での生徒間の話合いが活発に行われ、主体的な生徒会活動が行われるようになった。また、学級実態調査書をもとに生徒同士や生徒と教師が話し合う機会も増えたことで、生徒相互や生徒と教師の温かい人間関係がつくられ、いじめの未然防止につながっている。

５　今後の課題

- 学級実態調査で出された学級の課題に、どう学級で取り組んでいくかが大切である。委員長や副委員長が拡大中央委員会からの提案を伝えて終わるのではなく、定期的に朝や帰りの会で現状を確認したり、声をかけ合っていくことが更に求められている。
- 今後も学級実態調査書を活用しながら、生徒の様子をよく把握していくことでいじめの未然防止に努めていきたい。

学　校　名	三種町立琴丘中学校	生徒数	１１７人	学級数	５

１　活動名　「あいうえお学校」の推進と「いじめ根絶スローガン」の学級掲示

２　活動の趣旨

「**い**じめのない 思いやりにあふれた学校」の実現を目指し、生徒会スローガン「琴中生みんなで築く『あ**い**うえお学校』」を推進する。

さらに、年度当初、学級全体が学級目標について議論するとともに、学級からいじめを出さないために「いじめ根絶スローガン」について討議、決定し、学級に掲示する。

３　活動の概要

本校では、学校教育目標のほか、生徒会スローガン「琴中生みんなで築く『あいうえお学校』」の推進を目指している。

このうち、「い」は、「**い**じめのない 思いやりにあふれた学校」を実現するものであり、ことあるごとに、校長はもちろん、生徒会長が全校生徒に呼び掛けていくことが、日常の活動の一つになっている。

また、年度当初、各学級で学級目標について議論する際、学級からいじめを出さないことを目標に、「いじめ根絶」について考え、スローガンを決定している。教室の前面に掲示することで、いじめ根絶に対する生徒自身の意識が高くなるようにしている（写真参照）。写真のほか、主なものは「いじめ やめよう 止めよう 助けよう」（２年）、「十人十色、みんな平等！」（３年）などである。

【実際に学級掲示をしている学級目標（１年Ａ組）。下部に「いじめ根絶スローガン」を付記し、意識の高揚を図っている。１Ａは「いじめをね　なくして築く　心の輪」。】

さらに、いじめ等に関するアンケート調査を月１回実施し、必要に応じて早急に学年部が教育相談を行っている。

４　これまでの成果と考えられること

上記のように、「あいうえお学校」の推進、「いじめ根絶スローガン」の学級掲示、「いじめアンケート」の調査を継続することで、いじめに対する生徒自身の抑止力の醸成にもつながっており、現在いじめに関する大きな問題は発生していない。

５　今後の課題

・いじめアンケート調査の項目及び実施回数を検討し、生徒にとってアンケート調査の項目、そして調査に回答すること自体がマンネリとならないようにする必要がある。
・学校内における目に見えるいじめだけではなく、ネット上の書き込み（誹謗中傷等）など、家庭をも含めた情報モラルについて更に具体的に指導する必要がある。この場合、家庭や保護者、さらには関係機関との連携が一層求められる。

学　校　名	由利本荘市立矢島中学校	児童生徒数	１１１人	学級数	５

１　活動名　　文化祭における「いじめ」をテーマとした演劇発表

２　活動の趣旨

文化祭において、いじめをテーマとした演劇を発表することにより、生徒だけではなく、観劇していただいた保護者や地域の方々にも、「いじめは絶対に許されない行為なのだ」というメッセージを発信し、いじめについて改めて考える機会にしてもらう。

３　活動の概要

⑴　活動の時期

練習期間：平成２４年８月２７日（月）～９月２８日（金）

発表日時：平成２４年９月２９日（土）　１４：００～１５：００　矢中祭舞台発表

⑵　参加生徒

出　演　者　３年生７名、２年生２名、１年生２名　　計１１名

大　道　具　３年生１名、２年生４名、１年生２名　　計　７名

音響・照明　３年生３名、２年生２名、１年生１名　　計　６名　　総計２４名

⑶　活動の内容

シナリオは第４８回全国高等学校演劇大会で最優秀賞を獲得した、福島県立小名浜高等学校石原哲也氏（本名　児玉洋次：角館町出身）の『チェンジ・ザ・ワールド』を使用した。

『チェンジ・ザ・ワールド』は、いじめグループの一員である「正ちゃん」が、いじめられて転校してきた過去を隠しながら、癌を宣告されて余命幾ばくもない友人の「ヤナ」との心の交流を通して、いじめの卑劣さや本当の強さとは何か、親友とは何かなどに気付き、成長を遂げていく物語である。

生徒たちは、単に与えられたシナリオどおりに演じるのではなく、よりメッセージ性を高めるために、セリフや演出について、様々な意見を出し合い、自分たちで工夫をして演劇を創り上げた。

死ぬ直前に「人間の幸せって、思いを伝えられる本当の友達がいること」と母に語るヤナや、いじめグループと対決し、自分をそして世の中を変えようとする正ちゃんの姿に、自分たちでよりよい世界を創り出せるという希望といじめ根絶の願いを込めた。

【『チェンジ・ザ・ワールド』の１シーン】

４　これまでの成果と考えられること

演劇発表後には、演じた生徒の頑張りだけではなく、登場人物の生き方や考え方等についても、生徒の間でいろいろと話題に上っていた。今回の演劇を通じて、生徒たちに「いじめ」について考えるきっかけを与えることができたと感じている。

また、観劇していただいた矢島高等学校の澤井校長先生からは、生徒指導研究協議会で演劇について御紹介をいただき、地域の方々にも一つの話題提供ができたのではないかと思う。

５　今後の課題

近年のいじめは、「相手の立場に立って考える」という基本的な感覚の欠如から、いじめる側に「いじめている」という自覚がないままに発生しているケースが多い。周囲の生徒も傍観してしまうことが多く、「気持ちを推し量る」という感性の涵養は必要不可欠であると思う。より身近な事柄をテーマとした演劇を通して、こうした感性を育てていきたい。

学　校　名	横手市立十文字中学校	児童生徒数	３６８人	学級数	１５

１　活動名　十中　warm heart 作戦　～みんなの言葉で明るく温かい学校を～

２　活動の趣旨

いじめ等の問題行動がない学校づくりの基盤は、生徒の温かな気持ちや主体的な生活態度であり、それは、明るいあいさつやボランティアなどの諸活動等の取組に対しての積極性等に表れる。統合３年目を迎えた本校では、そのような校風を生徒会主体で築いていくため、毎朝のあいさつ運動や前庭清掃、月１回程度開催の各委員会による生徒集会などを継続している。

その活動の一つとして、全校生徒から標語を募集して校内に掲示することで、いじめの未然防止を図るための取組を行った。

３　活動の概要

本活動は、「こども未来財団」による標語の公募を活用したものである。この財団は、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に、毎年５月５日の「こどもの日」から１週間を「児童福祉週間」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発のために標語を募集している。

この募集を知った生徒たちから、「全校生徒に知らせて、ぜひ、応募しよう」「よい作品を校内に掲示することで、いじめのない校風や思いやり・温かい気持ちを全校に広げよう」という意見が出て、次のような活動につながった。

◆活動名　十中　warm heart 作戦　～みんなの言葉で明るく温かい学校を～
◆主　催　生活委員会
◆対　象　全校生徒
◆日　程　・標　語　募　集　平成２４年　９月１８日（火）～２８日（金）
　　・標　語　選　考　平成２４年１０月　１日（月）
　　・ポスター制作　平成２４年１０月　９日（火）～１９日（金）
　　・校　内　掲　示　平成２４年１０月２２日（月）～

全校から、100点を超える標語が寄せられ、生活委員会の選考で次の作品が校内に掲示されることになった。また、全作品を「こども未来財団」に送付し、自分たちの願いを広く発信する予定である。

○「君がいる　だからみんなが　笑顔だよ」
○「ありがとう　私は幸せ　次は君」
○「あいさつは　みんなをつなぐ　言葉の輪」
○「あいさつは　心と心を　つなぐ橋」
○「大切に　宝物だよ　その笑顔」

４　これまでの成果と考えられること

全校の３分の１近くの生徒が真剣に標語を考え、作品を応募した。

この応募を機会に、学級の中の人間関係について学級会を開いて話し合うなど、予想を超えた広がりが見られた。

また、主催した生活委員会では、自分たちの活動で学校をよりよくしていこうとする意欲が、一層高まったようである。あいさつ運動のような日常的な活動とともに、このような企画に全校をあげて取り組んで行くことが、いじめのない明るい学校やよりよい校風づくりに重要であると感じた。

【標語を選考している生活委員】

５　今後の課題

今回は外部団体の募集を活用した形であったが、今後は、生徒会主催で年２回程度の定期的な募集をすることで、より主体的で継続した取組になるよう働きかけていきたいと考えている。

学　校　名	秋田市立豊岩中学校	児童生徒数	４１人	学級数	４

１　活動名　いじめ０の学校を目指して

２　活動の趣旨

今年度６月の「学校生活に関するアンケート」において、いじめを受けていると回答した生徒はおらず、夏休み中の三者面談においても、いじめに関わる相談は保護者・生徒ともなかった。しかしながら、集団生活において、人間関係の行き違い・トラブルは必ず起こり得るものであり、生徒はそのような体験を通して人との関わり方を学習していくものである。そこで、いじめはどの学校にも、どの子どもにも起こりうるという認識に立ち、「いじめは人間として絶対に許されない行為であること」「いじめられたと感じた人の気持ちを重視すること」を徹底し、生徒に望ましい人間関係を構築する力を身に付けさせることで、４１名の生徒全員が、「学校生活は楽しい」と感じ、深刻ないじめを生み出さないことにつなげていく必要があると考える。

本校では、役員改選となる後学期から、「いじめ問題」を生徒会活動の重点の１つとして取り上げ、いじめのない学校づくり、相手の気持ちを考えた言動ができる集団づくりを目指したいと考えている。生徒の主体性を尊重しながら、次のような活動に取り組むことを検討している。

３　活動の概要

(1) 望ましい人間関係づくりを目指した生徒会スローガンの決定（１０月）

例年「こんな学校にしたい」という生徒一人一人の願いを集約した形でスローガンは決定されているが、今年度は、相手の気持ちを考えた言動ができる集団づくりを目指す内容となるよう、生徒に働きかけていきたいと考えている。

(2) 生徒会報での呼びかけ（１２月　２月）

定期的に発行している生徒会報に、いじめ防止に関する内容を積極的に盛り込むとともに、いじめ問題が話題となることが想定されている秋田市中学生サミットの内容を、今まで以上に詳細に紹介し、生徒全員の意識付けを図りたいと考えている。

(3) いじめ撲滅の標語の募集（１２月）

全校生徒からいじめ撲滅に関する標語を募集し、効果的な掲示の仕方を工夫したり、その後の学校生活への生かし方を考えたりしながら、いじめ問題に対する生徒一人一人への意識付けを図りたいと考えている。

(4) 生徒会活動研修会の実施（３月）

例年、生徒会活動研修会を開催し、１つのテーマについて生徒全員で話し合う活動を実施しているが、今年度は、テーマを「いじめ防止」として、いじめ問題をより深く考える機会にするとともに、現在の本校の現状や一人一人の内面を振り返る機会にしたいと考えている。

４　期待される活動の成果

いじめ防止に係る生徒主体の活動を推進することにより、相手の気持ちを考えた言動など、「いじめは絶対に許されない」ことの共通実践が図られ、生徒一人一人の規範意識の向上が期待できる。併せて、集団づくりの基盤となる人間関係を築く力も育まれるものと考える。

学　校　名	男鹿市立潟西中学校	児童生徒数	１０８人	学級数	４

１　活動名　いじめ問題についての全校集会活動

２　活動の趣旨

いじめの事例について、全校縦割り班で話し合い解決策を考えることにより、いじめ問題についての意識を高めるとともに、自分たちの学校生活を振り返らせる。

３　活動の概要

〇実施日・・・平成２４年１０月４日　１校時
〇主催・・・・生活安全委員会
〇参加者・・・全校生徒
〇活動内容
・全校９班の縦割り班に分かれ、３年生が司会、記録、発表を担い、話し合いを主導する。
・班員全員から意見を述べさせた後、解決策について話し合う。
・生徒に提示した事例

Ａは面倒見がよく、優しい面もあるが、一方気が強く、何かにつけてクラスメートに強い口調で接し、いろいろな人の悪口も言っていた。最も仲のよかったＢとちょっとしたケンカをしてから、友だちが次々に離れ、一人ぼっちになってしまった。今では、関係のないクラスメートにまで、よそよそしくされたり、無視されたりするようになった。体に不調を感じ、学校を休みがちになりつつある。どうしたらいいだろうか？

・話し合った内容について、班ごとに発表する。
・各学年から１名ずつ感想発表を行う。
・校長先生の講評を聞く。

【全校縦割り班で話合い】

【「潟中三原則」を提案・・・いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」】

４　活動の成果

上級生の誘導で、スムーズかつ真剣味のある話合いになった。ふだん、あまり親しくない人の意見を聞くことで、お互いを理解する一歩にもなったと考えられる。また，全校でいじめを無くしていくという意志統一を図ることができた。そして，生活アンケートから，一人一人のいじめに対する問題意識が高まったことがうかがえた。

５　今後の課題

「潟中三原則」の掲示の仕方を工夫し、今後もいじめ根絶を目指して、呼びかけていきたい。

学　校　名	大仙市立大曲中学校	児童生徒数	７４６人	学級数	２４

１　活動名　「心の力」プロジェクト　「青いリボン運動」

２　活動の趣旨

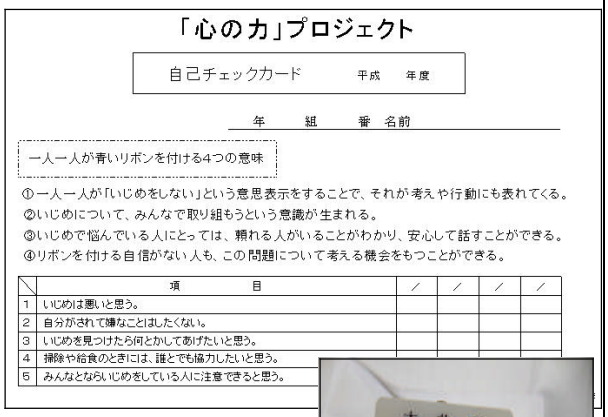
本校では、平成１８年度、生徒が主体的に課題解決を図るとともに、互いに支え合い、誰もが楽しい学校をつくろうという目的で、生徒会による「心の力」プロジェクトを立ち上げた。そのプロジェクトの一つとして、生徒一人一人のいじめに対する問題意識を高め、いじめを許さないという心を育むために青いリボン運動を開始した。

「心の力」プロジェクトの主な内容
- 青いリボン運動…いじめ撲滅に向けた取組
- 若竹タイム…よりよい学級の構築に向けた話合い
- エコキャップ運動…ワクチンを贈ることにより思いやりの心を育むエコキャップ回収活動
- 福祉施設慰問…思いやりの心を育む慰問活動

３　活動の概要

青いリボン運動は、「心の力」プロジェクトを立ち上げた翌年の平成１９年度、生徒会の専門員会として設置した「心の力」プロジェクト委員会が担当しており、主に次のような活動を行っている。

- 毎年５月に行われる生徒総会において、全校生徒に「青いリボン運動」の趣旨を説明する。
- 年４回、右の「心の力」プロジェクト自己チェックカードで５項目について自己診断を行い、うち３項目以上当てはまったら名札に青いリボンをつけ、いじめを許さないという意思表示をする。



「心の力」プロジェクト

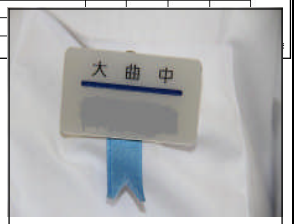
自己チェックカード　平成　年度

年　組　番　名前

一人一人が青いリボンを付ける4つの意味

①一人一人が「いじめをしない」という意思表示をすることで、それが考えや行動にも表れてくる。
②いじめについて、みんなで取り組もうという意識が生まれる。
③いじめで悩んでいる人にとっては、頼れる人がいることがわかり、安心して話すことができる。
④リボンを付ける自信がない人も、この問題について考える機会をもつことができる。

	項　目	／	／	／	／
1	いじめは悪いと思う。				
2	自分がされて嫌なことはしたくない。				
3	いじめを見つけたら何とかしてあげたいと思う。				
4	掃除や給食のときには、誰とでも協力したいと思う。				
5	みんなとならいじめをしている人に注意できると思う。				



名札につけた青いリボン

青いリボン運動は、今年で７年目を迎えた。「私はいじめをしない」、「いじめをなくしたい」、「いじめを見つけたら何とかしたい」という一人一人の思いが、青いリボンという目に見える形となり、現在も全校生徒７４６名に引き継がれている。

４　これまでの成果と考えられること

全校生徒による自己評価や生徒会執行部による評価から、成果として次のことが挙げられる。

①いじめに対する意識が高まり、自分たちの問題として捉えられるようになってきている。
②自己チェックカードに記入することで、その都度自分の言動について振り返ることができる。
③目に見える形にする（リボンを付ける）ことで、自分には仲間がいるという安心感が生まれてくる。
④自分の意志でリボンを付けることで、責任感や学校生活を向上させようとする力が高まっている。
⑤よりよい人間関係が構築され、お互いを思いやる学級・学校にしようとする雰囲気ができている。

５　今後の課題

このプロジェクトが始まってから７年という時間が経過しているため、青いリボンを付けることや運動を推進することに対するマンネリ化が懸念される。本来のいじめ撲滅宣言という意識が低くなり、青いリボンという「形」だけで進められ、「心」が伴っていないのではないかということである。青いリボン運動の趣旨を再確認しながら、日々の生活の中でいじめを無くすために自分にできることは何かを生徒一人一人に考えさせていきたい。

また、大仙市の中学生で組織されている中学生サミットでもいじめについて話し合われてきた。他校の取組を参考にしながら、今後も相手を思いやる気持ちを育てていきたい。

学　校　名	湯沢市立湯沢北中学校	生徒数	３３４ 人	学級数	１２

１　活動名

東北つながりの会（小・中合同委員会活動）
－相手を思いやる心を育てる活動を通して、いじめをなくそう－

２　活動の趣旨

一体型校舎の特色を生かして、小・中合同の委員会活動を湯沢東小学校と一緒に行うことで、弱い立場の人を守ろう、手助けしよう、支えようという気持ちが育つ。その思いやりの気持ちでいじめをなくすことに結び付ける。

３　活動の概要

（１）活動時期　　随時

（２）活動児童生徒　本校生徒及び湯沢東小学校５・６年生の各委員会児童

（３）活動内容

小・中の委員会活動の時間を各学期に１回同じ時間に設定し、小・中学校それぞれにおいて困っていることを出し合って一緒に活動し、解決を図る。

合同委員会を「東小学校」と「北中学校」から名前を取って「東北つながりの会」と命名した。また、委員会名を可能な限り統一した。

【あいさつ運動（生活委員会）】

〇９月の「東北つながりの会」後の主な活動内容

・生活委員会・・・あいさつ運動、あいさつ標語募集
・交通安全委員会・・・危険箇所マップ作り、交通安全集会の計画
・ボランティア委員会・・・空き缶とペットボトルキャップ回収、１円玉募金
・整美委員会・・・すみずみMonday（ぞうきん拭き）の呼びかけ
・図書委員会・・・読み聞かせ活動、新刊の紹介
・保健委員会・・・目の愛護デー、生活リズムチェック、歯みがき等の標語募集

４　これまでの成果と考えられること

昨年からスタートした「東北つながりの会」。今年度はこれまで２回の合同委員会を行っている。その後、３年生の生徒は小学生を気遣ったり、守ってあげたりしたいとい　う思いやりの心をもって活動計画を立てることが多くなっている。これらの活動による心の成長は、実際に活動している生徒たちの優しい表情、丁寧な言葉遣い、気遣いのある行動などに現れている。２年生も今までは先輩たちに任せっきりだったが、自覚ある行動が多くなってきている。１年生は小学生の手本としてしっかりしていこうという思いが強くなり、自己有用感を持もつことができるようになっている。小学生もまた、中学生のリーダーシップ等に触れることによって、委員会活動が活性化してきている。

本校で実施しているいじめアンケート調査でも、いじめに関する訴えの件数が１学期より減ってきている。いじめの内容は、からかわれたり、いたずらされたりと、他の人の気持ちを考えないものが大半であった。この訴えが減っているのは、本活動により相手を思いやる気持ちが育ってきているからと考えている。

５　今後の課題

委員会活動は３年生中心の活動になりがちだが、１・２年生も活動に一層積極的に参加できるようにし、小学生のことを思いやったり、仲間のために働く喜びや達成感を多く味わったりするなどの気持ちを、耕していくことができればと思っている。また、体育祭や合唱祭などを小学生が見学したり、参加したりしているが、その交流を中学生の優しい気持ちや小学生の心の成長にどのようにつなげていくのかを考えながら実施していきたい。一体型校舎の強みを生かして、小学校の先生方とも今まで以上に協力して取り組んでいきたい。